

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年7月16日(2009.7.16)

【公表番号】特表2005-534703(P2005-534703A)

【公表日】平成17年11月17日(2005.11.17)

【年通号数】公開・登録公報2005-045

【出願番号】特願2004-526726(P2004-526726)

【国際特許分類】

C 07 C 67/347 (2006.01)

C 07 C 67/343 (2006.01)

C 07 C 69/593 (2006.01)

C 07 C 69/602 (2006.01)

【F I】

C 07 C 67/347

C 07 C 67/343

C 07 C 69/593

C 07 C 69/602

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年5月26日(2009.5.26)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

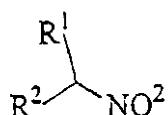
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式(II)：

【化1】

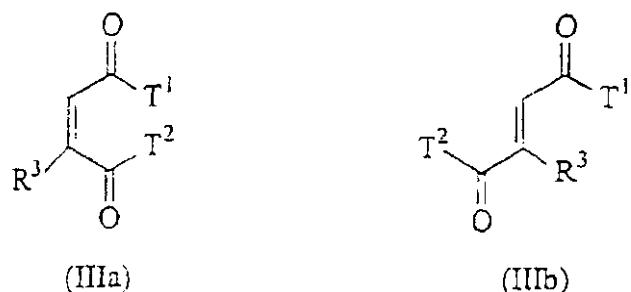


(II)

の化合物と、

式(IIIa)または(IIIb)：

【化 2】



の化合物とを、式(IIa)または(IIb)の化合物に対して少なくとも1当量の金属Mのカーボネート(Mはカリウム)の存在下、70より高い温度で反応させる工程からなる、式(Ia)または(Ib)：

【化 3】



〔式中、R¹、R²、R³は、互いに同一または異なり、水素原子、または周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含むC₁～C₂₀の炭化水素基、またはR¹とR²は、共に結合して、周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含む飽和または不飽和のC₃～C₁₀環を形成できる、但し、R¹とR²が共に水素原子のときは、式(Ia)の化合物のみが得られる、

T^1 と T^2 は、互いに同一または異なり、H、OR⁴、R⁴、NR⁴₂、SR⁴またはPR⁴₂、または T^1 と T^2 は、酸素原子あるいはNR⁴基と結合し、 T^1 -O- T^2 基または T^1 -NR⁴- T^2 基を形成でき。

R⁴は、互いに同一または異なり、周期律表の族13～17に属する1以上の異原子を任意に含む、C₁～C₂₀炭化水素基である】

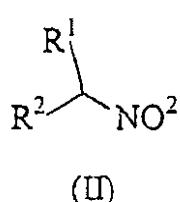
の2-アルキリデン-1,4-ジオン誘導体または式(Ia)と(Ib)の混和物の製造法。

【請求項2】

次の工程：

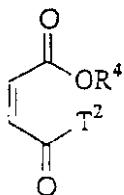
a) 式(11)：

【化4】

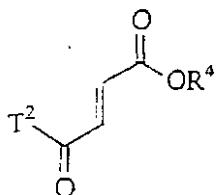


の化合物と、式(Va)または(Vb)：

【化5】



(Va)

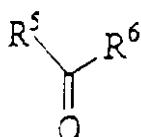


(Vb)

の化合物とを、式(Va)または(Vb)の化合物に対して少なくとも1当量の金属Mのカーボネート(Mはカリウム)の存在下、70より高い温度で反応させ、

b)工程a)で得られる化合物と、式(VI)：

【化6】



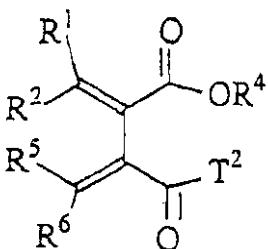
(VI)

の化合物とを反応媒体と塩基の存在下で処理し、かつ

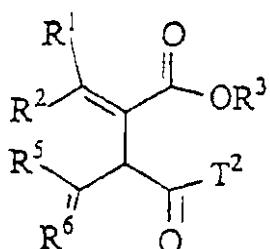
c)工程b)で得られる生成物をエステル化することからなる、

式(IVa)、(IVb)または(IVc)：

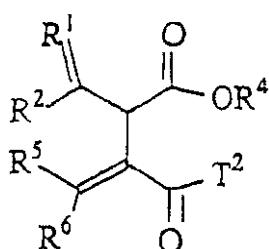
【化7】



(IVa)



(IVb)



(IVc)

(式中、R¹、R²、R⁴とT²は、請求項1に記載したのと同一意味で、R⁵とR⁶は、互いに同一または異なり、水素または、周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含むC₁～C₂₀炭化水素基、またはR⁵とR⁶は共に結合して、周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含む飽和もしくは不飽和のC₃～C₁₀環を形成できる；但し、R⁵とR⁶は同時に水素ではない)の2,3-ジ置換アルキリデン-1,4-ジオン誘導体またはその混合物の製造法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

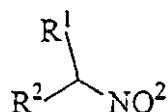
【訂正の内容】

【0007】

従って、本発明の目的は、

式(II)

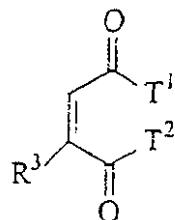
【化1】



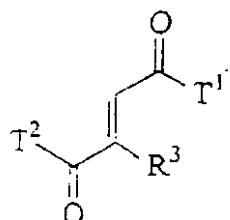
(II)

の化合物と、式(IIIa)または(IIIb)：

【化2】



(IIIa)

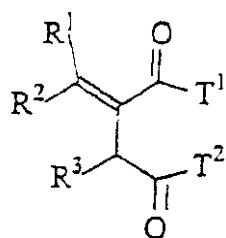


(IIIb)

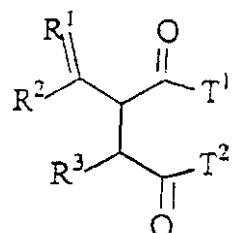
の化合物とを、塩基性の塩または中性塩基の、式(IIIa)または(IIIb)の化合物に対して少なくとも1当量の存在下、70 より高い温度で反応させる工程からなる、

式(Ia)または(Ib)のアルキリデン-1,4-ジオン誘導体または式(Ia)と(Ib)の混合物、

【化3】



(Ia)



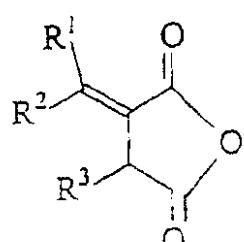
(Ib)

(式中、R¹、R²、R³は、互いに同一または異なり、水素原子、または周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含むC₁～C₂₀の炭化水素基、またはR¹とR²は、共に結合して、周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含む飽和または不飽和のC₃～C₁₀環を形成できる、但し、R¹とR²が共に水素原子のときは、式(Ia)の化合物のみが得られる、

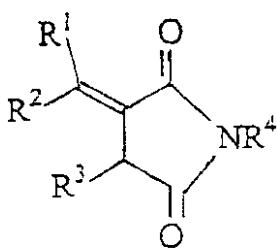
好ましくはR³は、水素原子、線状あるいは分枝状、飽和あるいは不飽和のC₁～C₁₅アルキル、C₃～C₁₀シクロアルキル、C₆～C₁₀アリール、C₇～C₁₂アルキルアリールまたはC₇～C₁₂アリールアルキル基；より好ましくはR³は、水素原子、線状あるいは2級のC₁～C₈アルキルまたはC₅～C₇シクロアルキル基、例えばメチル、エチル、イソブチルまたはシクロヘキシル；さらにより好ましくはR³は、水素原子；

T¹とT²は、互いに同一または異なり、H、OR⁴、R⁴、NR⁴₂、SR⁴またはPR⁴₂、またはT¹とT²は、酸素原子あるいはNR⁴基と結合し、T¹-O-T²基またはT¹-NR⁴-T²基を形成でき、例えば式(Ic)または(Id)

【化4】



(Ic)



(Id)

の化合物と対応する二重結合異性体を形成できる、

R^4 は、互いに同一または異なり、周期律表の族13～17に属する1以上の異原子を任意に含む、 C_1 ～ C_{20} 炭化水素基、好ましくは R^4 は、線状あるいは分枝状の C_1 ～ C_{20} アルキル、 C_3 ～ C_{10} シクロアルキル、 C_6 ～ C_{10} アリールまたは C_7 ～ C_{12} アルキルアリール基、より好ましくは R^4 は、線状あるいは分枝状の C_1 ～ C_8 アルキルまたは C_5 ～ C_{10} シクロアルキル基、例えばメチル、エチル、イソブチル、t-ブチルまたはシクロヘキシル、

好ましくは T^1 と T^2 は、 OR^4 、 R^4 、 NR^4_2 、 SR^4 で、より好ましくは T^1 と T^2 は、 OR^4 である]の2-アルキリデン-1,4-ジオン誘導体または式(Ia)と(Ib)の混合物の製造法である。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

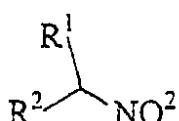
【0025】

この発明のさらなる目的は、

次の工程：

a)式(II)：

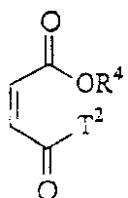
【化6】



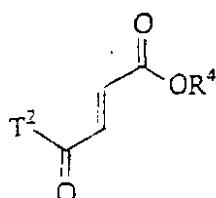
(II)

の化合物と、式(Va)または(Vb)：

【化7】



(Va)



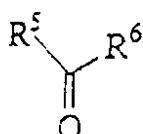
(Vb)

の化合物とを、式(Va)または(Vb)の化合物の少なくとも1当量の金属Mのカーボネー

ト (M はカリウム) の存在下、70 $^{\circ}\text{C}$ より高い温度で反応させ、

b) 工程a) で得られる化合物と、式(VI)：

【化8】



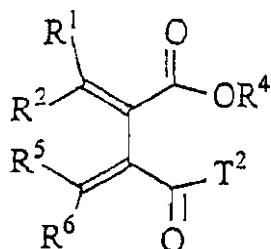
(VI)

の化合物とを反応媒体と塩基の存在下で処理し、かつ

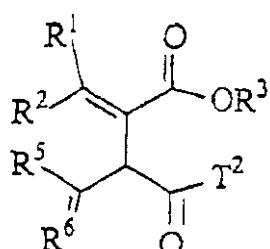
c) 工程b) で得られる生成物をエステル化することからなる、

式(IVa)、(IVb) または (IVc)：

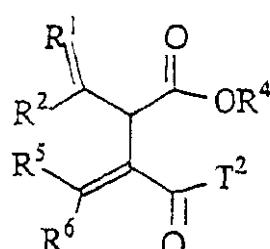
【化9】



(IVa)



(IVb)



(IVc)

(式中、R¹、R²、R⁴ と T² は、上記、好ましくは T² は OR⁴ ; R⁵ と R⁶ は、互いに同一または異なり、水素または、周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含む C₁～C₂₀ 炭化水素基、または R⁵ と R⁶ は共に結合して、周期律表の族13～17に属する異原子を任意に含む飽和もしくは不飽和の C₃～C₁₀ 環を形成できる；但し、R⁵ と R⁶ は同時に水素ではない)

の 2,3-ジ置換アルキリデン-1,4-ジオン誘導体またはその混合物の製造法である。